

9th Annual meeting of the Japanese Society of Health and Behavior Sciences

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/25872

『学会開催報告』

日本健康行動科学会第9回学術大会 9th Annual meeting of the Japanese Society of Health and Behavior Sciences

日本健康行動科学会第9回学術大会 大会長
(金沢大学医薬保健研究域医学系運動生体管理学)

藤原 勝夫

平成22年10月9日(土)・10日(日)の両日、金沢大学医学部十全講堂において、日本健康行動科学会第9回学術大会を十全医学会の後援をいただいて開催させていただきました。金沢での開催は、第4回(平成17年)に続いて2回目となります。

本学会は、子どもから高齢者までのそれぞれの世代の人々が抱える健康に関する多岐にわたる問題をさまざまな学問領域から総括的に捉えていくことが重要であるとの考えに立ち、時代に即した健康科学の問題点の指摘と健康づくりの新しい方法論を提示することを学会の使命としております。学会構成員の主な研究領域は、運動生理学、神経生理学、健康教育学、発育発達学、老年医学、理学療法学、作業療法学、看護学、柔道整復学、栄養学、介護福祉等と多岐にわたります。

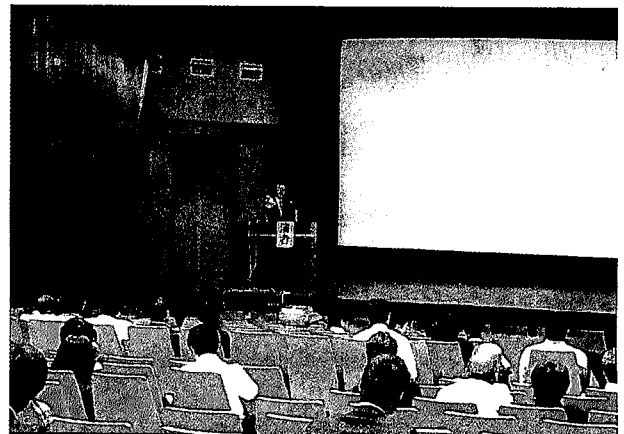
今回の学術大会では、富田勝郎先生(金沢大学附属病院病院長、整形外科名誉教授)による公開特別講演を設け、「「姿勢」と「腰痛」—「生き生き100歳ゴール」への指南術—」と題してお話をさせていただきました。会員および一般市民の方を対象に、富田先生の御専門である脊椎を中心として骨関節系を健やかに維持して老後を元気に過ごすための方策を分かりやすくご説明いただきました。

また、シンポジウムとして「脳活動を測る」を設けました。このシンポジウムは、若手研究者4名をシンポジストとし、反応時間および誘発脳電位からみた脳賦活、事象関連脳電位(CNV)からみた脳機能の評価、近赤外線分光法(NRIS)を用いた大脳皮質運動野活動の評価、および脳波 β 帯域の時間一周波数解析法について、最新の研究動向と研究手法を紹介していただきました。いずれも、精力的に研究を進めている先生のプレゼンテーションであり、会員の研究意欲を刺激するものでした。さらに、会員を対象とした公募形式でのミニ・シンポジウムを企画しました。今回は「慢性疾患と生活—理学療法の立場から」と題するミニ・シンポジウム開催の提案があり、臨床経験の豊富な3名の先生による変形性膝関節症、慢性閉塞性肺疾患、および糖尿病患者の生活の質の維持・改善についてお話しをいただきました。これらのシンポジウムとミニ・シンポジウムは、積極的な研究を展開しており、将来を担う若手研究者の発表の場を充実したいとの観点から企画・運営を行ったものです。

一般演題は、全ての演題について最初に口頭発表を行い、それに続いてポスター発表を行う形式としました。これは、個々の研究発表について、十分な討論の時間をもうけて研究談義を深める、という学術大会の意義を重視した運営です。一般演題数は36題であり、どの演題についても活発な質疑応答がなされました。特に、ポスター発表では、事前の口頭発表による内容と質疑応答を踏まえ、さらなる深い討論が発表終了時刻まで展開されました。その場は、研究に対する研究者の情熱が強く感じられる場面でした。一般演題については、座長推薦を受けた中から2つの演題について大会長優秀発表賞を授与いたしました。

この他に、ランチョン測定器セミナーを設けました。ここでは、研究を行う上で必要不可欠な測定機器の情報交換の場となるよう、最新機器の紹介を機器の開発者・販売者による実演を交えて行いました。

次回(第10回学術大会)は、平成23年10月29日(土)、30日(日)に神奈川県平塚市の東海大学で開催されることが総会で決定いたしました。皆様の参加をお待ちしております。



富田勝郎先生による公開特別講演



口頭発表後のポスター発表会場(一般演題)